



平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 山崎製パン株式会社
コード番号 2212 URL <http://www.yamazakipan.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 吉田 輝久

TEL 03-3864-3110

四半期報告書提出予定日 平成26年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	731,320	4.2	13,114	6.2	14,189	5.7	8,843	△9.9
25年12月期第3四半期	701,609	△0.3	12,352	△32.3	13,422	△28.5	9,816	17.2

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 8,767百万円 (△29.1%) 25年12月期第3四半期 12,361百万円 (25.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	40.29	—
25年12月期第3四半期	44.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第3四半期	639,113	280,470	40.5
25年12月期	656,629	275,596	38.6

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 258,543百万円 25年12月期 253,308百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	—	—	16.00	16.00
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	977,000	0.9	22,500	35.7	24,000	28.2	11,500	1.5	52.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期3Q	220,282,860 株	25年12月期	220,282,860 株
26年12月期3Q	852,058 株	25年12月期	798,895 株
26年12月期3Q	219,475,032 株	25年12月期3Q	219,509,875 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
4. 補足情報	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成26年1月1日～平成26年9月30日）におけるわが国経済は、4月の消費増税に伴う駆け込み需要の反動によって鉱工業生産が減少し、増税後に落ち込んだ個人消費の回復が遅れるなど、景気は弱めの動きとなりました。

当業界におきましては、4月1日の消費税率引上げに際し、日本パン公正取引協議会において消費税の転嫁及び表示カルテルを結成し、消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保に取り組みました。当第3四半期連結累計期間においては、お客様の低価格志向が続く中で販売競争が激化するとともに、原材料価格の上昇や電気料金、燃料等のエネルギーコストの増加もあり、収益が圧迫される厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、製品の品質向上に積極的に取り組み、キャンペーンを活用して主力製品の取扱拡大をはかるとともに、高品質・高付加価値製品の開発に取り組むなど、市場動向に即応した部門別製品施策、営業戦略を推進しました。また、菓子パンを中心にヤマザキの売れ筋製品「厳選100品」を重点的に拡販し、主力製品の売上構成比を高め、効率の良い生産、販売、物流体制の構築をはかりました。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「ヤマザキベストセレクション」を中心に、当社グループの総力を挙げて、パン、和洋菓子等の価値ある製品の提供につとめるとともに、工場エリア毎に再編成したリージョンと各工場の営業部門が一体となって店舗の開発、運営に取り組み、新業態の「ニューヤマザキデイリーストア」の店舗展開を推進しました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は7,313億20百万円（対前年同期比104.2%）、営業利益は131億14百万円（対前年同期比106.2%）、経常利益は141億89百万円（対前年同期比105.7%）、四半期純利益は88億43百万円（対前年同期比90.1%）となりました。一部の連結子会社が加入しておりましたヤマザキ・サングループ厚生年金基金の代行部分返上に伴う特別利益の計上がありました。前年同期において子会社合併に伴う法人税等の減少があったこと等により、四半期純利益は減益となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は、次のとおりであります。

①食パン部門（売上高701億29百万円、対前年同期比100.6%）

食パンは、主力の「ロイヤルブレッド」に4月から「ロイヤルブレッド山型」を投入して品揃えを拡充するとともに、量販店において専用コーナーを設けるなど「ロイヤルブレッド」の売場づくりを推進しました。また、高品質・高付加価値の食パン「ヤマザキゴールドシリーズ」の取扱拡大やキャンペーンを活用した主力製品の拡販など、品質訴求による販売強化をはかり、売上は前年同期を上回りました。

②菓子パン部門（売上高2,513億47百万円、対前年同期比101.5%）

菓子パンは、「厳選100品」を拡販して主力製品の育成をはかるとともに、高品質・高付加価値の「おいしい菓子パン」シリーズの取扱拡大を推進しました。新製品「ドーナツ」シリーズが売上を牽引してドーナツが大きく伸長するとともに、ペストリーが好調に推移し、堅調な売上となりました。

③和菓子部門（売上高493億97百万円、対前年同期比105.0%）

和菓子は、串団子や大福、まんじゅうが好調に推移するとともに、7月にチーズを増量し風味を向上した「北海道チーズ蒸しケーキ」の寄与もあり蒸しパンが好調に推移するなど、売上は伸長しました。

④洋菓子部門（売上高886億90百万円、対前年同期比104.4%）

洋菓子は、消費増税の影響により売上が伸び悩む中、販売競争が激化する厳しい状況となりましたが、㈱不二家による㈱スイートガーデンの連結子会社化もあり、売上は前年同期を上回りました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高 1,037 億 34 百万円、対前年同期比 118.8%）

調理パン・米飯類は、コンビニエンスストアチェーンとの取引が拡大したことに加え、前第4四半期から新規連結した大徳食品(株)の麺類の売上増もあり、売上は大きく伸長しました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高 1,139 億 22 百万円、対前年同期比 102.0%）

製菓・米菓・その他商品類部門は、(株)不二家の中国事業が伸長するとともに、ヤマザキ・ナビスコ(株)や(株)東ハトのクラッカーとビスケットが好調に推移し、順調な売上となりました。

以上の結果、食品事業の売上高は 6,772 億 21 百万円（対前年同期比 104.4%）、営業利益は 135 億 72 百万円（対前年同期比 112.1%）となりました。

＜流通事業＞

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、小売市場においてコンビニエンスストア店舗数が急激に増加し小型スーパー、ドラッグストアとの販売競争が激化する中で、消費増税後のお客様の節約志向の高まりに加え、夏場の天候不順による飲料などの不振もあり、既存店売上が低下する厳しい状況となりました。営業総収入は 471 億 87 百万円（対前年同期比 101.0%）で、直営店の増加によって増収となりましたが、一方ではロイヤリティー収入の減少もあり、売上向上対策等のコスト増を吸収することができず、営業損失は 18 億 75 百万円（前年同期は 11 億 43 百万円の営業損失）となりました。

＜その他事業＞

その他事業につきましては、売上高は 69 億 11 百万円（対前年同期比 106.5%）、営業利益は 8 億 95 百万円（対前年同期比 92.6%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は 6,391 億 13 百万円で、前連結会計年度末に対して 175 億 15 百万円減少しました。流動資産は 2,117 億 51 百万円で、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末に対して 71 億 49 百万円減少しました。固定資産は 4,273 億 62 百万円で、繰延税金資産の減少等により、前連結会計年度末に対して 103 億 66 百万円減少しました。負債合計は 3,586 億 43 百万円で、前連結会計年度末に対して退職給付引当金の減少等により 223 億 89 百万円減少しました。純資産は 2,804 億 70 百万円で、前連結会計年度末に対して利益剰余金の増加等により、48 億 73 百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は 40.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は政府の経済対策の下支えによって持ち直しに転じることが期待されますが、実質可処分所得の減少によって個人消費の回復には時間を要するものと思われま

す。当業界におきましては、お客様の低価格志向が続く中で販売競争が激化するとともに、乳製品などの輸入原材料価格の上昇、電気料金、燃料等のエネルギーコストおよび物流費の上昇もあり、厳しい収益環境が続くことが予測されます。

このような状況下にあります。当社グループは、引き続き主力製品の品質向上と高品質・高付加価値製品の開発に取り組み、部門別製品施策、営業戦略を推進してまいります。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、各工場との協力体制のもと、店舗開発や直営店の運営を強化してまいります。商品面では、品質向上をはかった「ベストセクション弁当」の開発を推進するとともに、当社グループの価値ある製品の品揃えを充実強化してまいります。

さらに、当社本社、工場また関係会社において小委員会による「なぜなぜ改善」と「2本立ての5S」による業務改善に取り組み、内部管理体制の充実と業務の効率化をはかり、所期の目標達成をめざして努力してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

（環境対策引当金）

当社グループで保管するポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の処理費用につきましては、発生時に費用処理する方針でございましたが、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法施行令の一部を改正する政令」に伴い、事業者によるポリ塩化ビフェニル廃棄物の処分期間が平成 39 年 3 月 31 日まで延長されたため、第 1 四半期連結会計期間より見込額を引当計上しております。

これに伴い、当第 3 四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は 122 百万円減少しております。

（法人税率の変更等による影響）

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成 26 年 3 月 31 日に公布され、平成 26 年 4 月 1 日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成 27 年 1 月 1 日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の 37.8%から 35.4%に変更されております。

この税率変更により繰延税金資産の純額が 594 百万円減少し、当連結会計年度に費用計上された法人税等が同額増加しております。

（ヤマザキ・サングループ厚生年金基金の代行部分の返上）

当社の連結子会社の一部である(株)サンデリカほか 8 社が加入しておりましたヤマザキ・サングループ厚生年金基金は、確定給付企業年金法に基づき、平成 26 年 4 月 1 日付で厚生労働大臣から厚生年金基金の代行部分の過去分返上の認可を受けました。

これに伴い、連結子会社は「退職給付会計に関する実務指針（中間報告）」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第 13 号）第 44-2 項に基づき、当該認可の日において代行部分にかかる退職給付債務の消滅およびこれに伴う損益を認識し、当第 3 四半期連結累計期間に 9,614 百万円を特別利益として計上しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	82,538	97,924
受取手形及び売掛金	98,596	77,861
商品及び製品	10,668	11,561
仕掛品	596	875
原材料及び貯蔵品	9,897	9,261
繰延税金資産	3,541	3,010
その他	13,540	11,735
貸倒引当金	△480	△479
流動資産合計	218,900	211,751
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	341,586	343,092
減価償却累計額	△252,865	△256,966
建物及び構築物(純額)	88,720	86,125
機械装置及び運搬具	439,944	445,659
減価償却累計額	△368,745	△376,499
機械装置及び運搬具(純額)	71,198	69,160
工具、器具及び備品	26,837	27,404
減価償却累計額	△23,465	△23,929
工具、器具及び備品(純額)	3,371	3,475
土地	114,656	115,176
リース資産	32,097	30,065
減価償却累計額	△17,673	△17,710
リース資産(純額)	14,423	12,354
建設仮勘定	3,563	6,517
有形固定資産合計	295,934	292,808
無形固定資産		
のれん	17,471	15,379
その他	13,693	12,660
無形固定資産合計	31,165	28,040
投資その他の資産		
投資有価証券	50,952	51,418
長期貸付金	599	567
繰延税金資産	25,767	22,463
その他	35,854	34,757
貸倒引当金	△2,543	△2,693
投資その他の資産合計	110,629	106,513
固定資産合計	437,728	427,362
資産合計	656,629	639,113

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	73,725	69,402
短期借入金	60,276	61,784
リース債務	5,367	4,836
1年内償還予定の社債	1,234	1,374
未払法人税等	2,067	4,049
未払費用	35,400	31,407
賞与引当金	3,421	11,223
販売促進引当金	734	464
店舗閉鎖損失引当金	20	3
資産除去債務	32	29
その他	35,501	31,350
流動負債合計	217,781	215,927
固定負債		
社債	2,465	2,376
長期借入金	44,129	33,438
リース債務	9,692	8,240
退職給付引当金	89,485	81,125
役員退職慰労引当金	3,423	3,447
環境対策引当金	—	156
資産除去債務	4,230	4,236
その他	9,824	9,694
固定負債合計	163,251	142,715
負債合計	381,032	358,643
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,676	9,676
利益剰余金	220,019	225,351
自己株式	△808	△821
株主資本合計	239,901	245,220
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,514	13,444
繰延ヘッジ損益	9	8
土地再評価差額金	45	44
為替換算調整勘定	△161	△174
その他の包括利益累計額合計	13,407	13,323
少数株主持分	22,287	21,926
純資産合計	275,596	280,470
負債純資産合計	656,629	639,113

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	701,609	731,320
売上原価	448,804	470,245
売上総利益	252,804	261,075
販売費及び一般管理費	240,452	247,960
営業利益	12,352	13,114
営業外収益		
受取利息	45	97
受取配当金	516	562
固定資産賃貸料	439	433
持分法による投資利益	514	236
雑収入	1,153	1,153
営業外収益合計	2,668	2,483
営業外費用		
支払利息	1,267	1,069
雑損失	331	338
営業外費用合計	1,599	1,408
経常利益	13,422	14,189
特別利益		
固定資産売却益	37	34
投資有価証券売却益	46	640
厚生年金基金代行返上益	—	9,614
その他	—	19
特別利益合計	84	10,308
特別損失		
固定資産除売却損	1,195	1,342
災害による損失	99	825
のれん償却額	—	1,544
その他	252	1,627
特別損失合計	1,547	5,339
税金等調整前四半期純利益	11,959	19,158
法人税等	2,079	10,373
少数株主損益調整前四半期純利益	9,879	8,785
少数株主利益又は少数株主損失(△)	63	△57
四半期純利益	9,816	8,843

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,879	8,785
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,862	△40
繰延ヘッジ損益	△2	△0
為替換算調整勘定	612	10
持分法適用会社に対する持分相当額	8	12
その他の包括利益合計	2,481	△18
四半期包括利益	12,361	8,767
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,989	8,759
少数株主に係る四半期包括利益	371	7

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	648,390	46,727	6,490	701,609	—	701,609
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,581	4,891	22,052	31,525	△31,525	—
計	652,971	51,619	28,543	733,134	△31,525	701,609
セグメント利益又は損失(△)	12,106	△1,143	967	11,929	422	12,352

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額422百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	677,221	47,187	6,911	731,320	—	731,320
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,275	4,994	21,150	29,420	△29,420	—
計	680,497	52,181	28,062	760,740	△29,420	731,320
セグメント利益又は損失(△)	13,572	△1,875	895	12,592	522	13,114

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額522百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位：百万円)

セグメント名称	区 分	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)		比較増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食品事業	食パン	69,697	9.9%	70,129	9.6%	432	100.6%
	菓子パン	247,704	35.3	251,347	34.3	3,643	101.5
	和菓子	47,052	6.7	49,397	6.8	2,345	105.0
	洋菓子	84,918	12.1	88,690	12.1	3,771	104.4
	調理パン・米飯類	87,326	12.5	103,734	14.2	16,407	118.8
	製菓・米菓・その他商品類	111,691	15.9	113,922	15.6	2,230	102.0
	食品事業計	648,390	92.4	677,221	92.6	28,831	104.4
	流通事業	46,727	6.7	47,187	6.5	459	101.0
	その他事業	6,490	0.9	6,911	0.9	420	106.5
	合 計	701,609	100.0	731,320	100.0	29,711	104.2

(2) 主要子会社実績

(単位：百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
(株)不二家(連結)	64,904	72,142	7,238	11.2%	△ 452	△ 866	△ 413	—%
(株)サンデリカ	65,763	70,896	5,132	7.8	880	1,433	553	62.8
ヤマザキ・ナビスコ(株)	25,586	26,359	772	3.0	1,373	1,672	299	21.8
(株)ヴィ・ド・フランス	24,314	24,176	△ 138	△ 0.6	225	349	123	54.6
(株)東ハト	18,051	18,311	260	1.4	936	698	△ 238	△25.4

(3)平成26年12月期第3四半期の単体業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

平成25年7月1日付で(株)デリーヤマザキを吸収合併しましたので、平成25年12月期第3四半期の実績はデリーヤマザキ事業の平成25年7月1日から平成25年9月30日までの実績を含んでおります。

①単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	513,840	6.7	8,604	△2.3	10,937	△2.9	4,741	△18.1
25年12月期第3四半期	481,737	2.8	8,809	△27.1	11,260	△19.1	5,786	△31.8

②単体販売実績

(単位:百万円)

期別 品種別	前第3四半期 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)		当第3四半期 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食パン	69,157	14.4%	69,503	13.5%	346	100.5%
菓子パン	232,231	48.2	235,391	45.8	3,159	101.4
和菓子	46,870	9.7	48,907	9.5	2,036	104.3
洋菓子	60,111	12.5	59,070	11.5	△1,041	98.3
調理パン・米飯類	27,610	5.7	25,762	5.0	△1,847	93.3
製菓・米菓・その他商品類	28,933	6.0	27,385	5.3	△1,548	94.6
小計	464,915	96.5	466,020	90.6	1,104	100.2
デリーヤマザキ事業	18,677	3.9	52,181	10.2	33,504	279.4
内部消去	△1,854	△0.4	△4,361	△0.8	△2,506	—
合計	481,737	100.0	513,840	100.0	32,102	106.7

③単体営業利益増減の内訳

(単位:百万円)

	平成25年 第3四半期		平成26年 第3四半期		増減額	増減率 (%)
		%		%		
営業利益						
山崎製パン(デリーヤマザキ事業を除く)	8,858	1.9	10,480	2.2	1,621	18.3
デリーヤマザキ事業	△48	△0.3	△1,875	△3.6	△1,827	—
合計	8,809	1.8	8,604	1.7	△205	△2.3

<山崎製パン(デリーヤマザキ事業を除く)増減内訳>

(単位:百万円)

	平成25年 第3四半期		平成26年 第3四半期		増減額	増減率 (%)	営業利益増減要因
		%		%			
売上総利益	144,272	31.0	147,071	31.6	2,798	1.9	売上高の増加 21億円 原材料費の減少 10億円 労務費の増加 ▲3億円 経費の増加 ▲11億円 償却費の減少 6億円 その他 5億円
販売費及び一般管理費	135,414	29.1	136,591	29.3	1,176	0.9	人件費の減少 3億円 経費の増加 ▲14億円 償却費の増加 ▲1億円

(注)「営業利益増減要因」欄で▲は営業利益のマイナス影響を表しています。

「%」欄は山崎製パン(デリーヤマザキ事業を除く)の売上高に対する比率を記載しています。

④単体財政状態

	総資産	純資産
	百万円	百万円
26年12月期第3四半期	482,670	239,097
25年12月期	494,329	237,993

(注)単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。